

No.	12	No Image
学区	逢坂学区、中央学区	
主な相手先	大津祭関係者	
日時	2019年8月23日（金曜）	
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・くじ取り式が行われる9月16日以降、本祭に向けて、個人宅では提灯、幔幕による飾り付けが行うしきたりとなっている。1階に提灯と幔幕、2階に毛氈と屏風と飾り付け ・飾り付けは曳山の巡行路であるかないかで違いがある。曳山がある町かどうかでも違いがある ・昔は、宵宮の日には1階に屏風を並べるという飾り付けを行っていたようで、明治の紀行文にもその旨の記載がある。今は、住宅の構造が変わってしまって、見せる場所が無くなったので、2階に並べる ・屏風祭というのは、1階に並べて、町内を歩く人に屏風を見てもらうというものだが、大津祭では2階に並べていて、見てもらえないのでそういう呼び方はしていない。祭りの設えとしてやっているもので、一般の人に見せるものではない ・宵宮のときの大吊り提灯は、曳山をライトアップする意味合いであるもの ・本祭のときの食事については滋賀の食事文化研究会が調べられている ・本祭のときは、鯛そうめんを作っている ・芋棒ではなく、小芋と棒鱈の煮たものが正しい（芋棒は、祇園さんの登録商標ではなかったか） ・鯖ずしを作って、お土産で持って帰ってもらう ・来客と言うと、親しい知人になる。親戚は手が足りないので手伝ってもらう ・上京町、中京町の東海道に面しているところは市からの補助金で修景が行われ、町並みが残すことができたところもある。しかし、町家は東海道沿いでないところのほうが残っている ・オモテは、「家の外」ではなく、店があった土間の部分を指す ・離れのことをウラと読んでいる ・台所をハシリと読んでいる ・奥座敷をオクと読んでいる ・道路側から順番に、店（オモテ）、茶の間、座敷（オク）、庭（ニワ）、蔵、離れ（ウラ） ・大津祭保存会の役割は、祭礼道具の保存修理を行うことであるが、管理まではし 	

ていない

- ・ 大津祭曳山責任者会には、天孫神社は入っていない
- ・ 曳山連盟は曳山を所有していない人も入ることができる組織。曳山責任者会は曳山の所有町しか入れない
- ・ 曳山連盟は元々財団法人にしようとしていたが、当時の法律では資本金が1億円必要ということでNPO法人になった。財団法人を目指しているときは開かれた組織にするという予定はなかったようだ
- ・ 曳山連盟、責任者会、保存会は1つの会社の部門のようなもの。保存会が祭礼道具の修繕を行い、責任者会が祭りを開催し、曳山連盟が祭りの開催を支援するというような役割分担

- ・ 大津は江戸時代の街並みがあつという間になくなってしまった
- ・ 江戸時代の豊かな歴史を感じさせるものは大津祭が唯一になってしまっているが、大津祭は1週間しかない。江戸時代の豊かさが感じられるようなもの（ミニチュアとか）がほしい
- ・ 曳山が巡行するのも町家の前を通るから映えると言える

- ・ 全ての曳山町で人の確保には苦労している。特に若い人、子どもが少ない。曳山の上で鐘を叩くのは子どもなのだが、小学生がいない町もある。その場合は、町外から来てもらう。元々は各町内の人でやるというお祭であったが、今はそんなこと言っていたら維持できない。各町では規則等を改正して対応している
- ・ 曳山1つ動かすのに、曳き手、囃子方、山建ての職人、警護といった人手がいる。曳き手は曳山連盟に募っていただき、確保できているが、囃子方、警護は各町で確保しないとイケない
- ・ 曳き手ボランティアの募集にも苦労している。お弁当と飲み物は支給、交通費は実費という形にしている
- ・ 囃子方の不足というのはもっと以前から言われていた。核家族化で町から出て行ってしまう人が多かったが、祭りのときだけ帰ってきてくれていたので、維持できていたのだが、その次の世代になってしまって、もう来なくなってしまった
- ・ 大津祭に参加するには、緋、着物、紋付といった衣装のほか、粽も用意しなくてはいけないので、非常に費用がかかる。それも減少の原因ではないかと考えている
- ・ 各町、曳山を動かすのに100万～200万ぐらい費用がかかっている。さらに、個人の負担がある

- ・ 大津市民が大津の町に愛着を持つことが大事
- ・ 外から入ってきた人に大津市のことを知ってもらう取り組みが必要
- ・ 大津の中心地には、マンションが建ってきていて、人口で見るとそこまで減っていない。マンションに住む人が大津の町を知って、祭りに参加したいとなるのが一番いい
- ・ 多くの人に参加してもらうために、衣装は貸し出しにするといった取り組みをしていく必要はあるだろうが、費用の問題で簡単にはできない

- ・ 曳山に乗せた子どもたちをいかに大津祭が好きな子に育てるかが必要。そのうち、部活とかで大津祭から離れてしまう。大津祭から離れないで、将来は祭りを担うのだという子を育てないといけない
- ・ 大津祭は他の祭りに比べると祭りを担う地域が非常に狭い。各町で曳山を持っているが、町は通りの両側の住宅でのみ構成されて、数が少ない。そのため、昔から曳き手を外から募っていたという特徴がある。町内が担う部分（囃子方など）の確保が問題

- ・ 曳山展示館は他の展示館に比べると、規模が小さい
- ・ 高札場があったところに広重の有名な絵を使った看板を立てるなどスポットを作っていくなどしてはどうか
- ・ 案内できるような歴史があるところはたくさんあるので、案内看板を立ててほしい
- ・ 大津祭の巡行路は全て無電柱化してほしい。電線が曳山に引っかからないようにしている
- ・ 大津祭の巡行路の道が悪い。工事の継ぎはぎでガタガタになっている
- ・ 旧町名の復活を目指して、旧町名の併記運動のようなものをしてはどうか